

みんなが幸せになるための人権学習

～人権学習・集団づくり・授業改革がつながってこそ～

1 まずは『安心してわからないと言えるクラス』をつくる

・人権学習抜きの『授業の工夫』や『優しさや思いやり』によって形成されるものではない

・学びの主体者としての権利意識を教室の文化として定着させる人権学習がなければ、『わからないこと』

できないこと』は、恥ずべき隠すべきこととされ、子どもたちを俯かせていく

2 そのためにも『教室に転がっているさまざまにこじれた関係』を解決する

① よくある話

・「AがBに『Cはイヤな子だから遊ばない方がいい』と告げると、理由も聞かず鵜呑みにしたBはDにその話を回し、DはE、EはFへと、が繰り返され、Cは知らないうちに孤立していく」

・「ところが、Eの話を聞いたFが、『Cのどんなところがイヤなの?』と尋ね、理由を知らなかったEDBを連れAに聞きに行く。と『呼んだのに無視した』と言うので、直接Cに聞きに行くと、Cは『呼ばれたことに気づかなかった』ときよんとしていた」

② こじれた関係を解きほぐす魔法の杖

・こじれ①

「無視した」という一方的な＜決めつけ＞＜思い込み＞

・こじれ②

「無視するからイヤな子だ」という、好き嫌いなどの評価が加わることで＜偏見＞へ

・こじれ③

「だから遊ばない方がいい」という＜排除＞がプラスされたとき、具体的な＜差別行為＞に

・こじれ番外編

差別行為をエスカレートさせるのは事実確認もせず同調し話をひろげる＜うわさ＞

★うわさが広がれば、Aは自分の怒りは正当なものだという思いを強め、同調している周りからも力をもらい、罪悪感なく差別行為を行なえるようになる

・こじれ④ 差別行為は放置すれば＜暴力＞を生む

・こじれ⑤ 究極は＜スケープゴート、虐殺＞にまで至る

★人間関係のこじれは、好き嫌いの評価が加わった段階ではなかなか修復できず、簡単に排除・いじめ・差別につながっていく ⇒ 肝心なのは、決めつけの段階で解決できる力を育むこと

・解決① まずは無視されたと感じたAがCに直接確認すれば、こじれる前に解決できる
(ただし誤解であれAはBに無視されたと思い込み傷ついていたのでこの行動はなかなか難しい)

・解決② 自分は何一つ傷ついておらず冷静でいられたBならできる
(Dのように、「なぜイヤな子だと思った?」と問い、「Cに確かめに行こう」と返せたはず)

・解決③ 差別の構造を知る人権学習

⇒今の自分の立ち位置を認識する力をつけ、生き方を考える学びを生み出す

「Cに確かめたの?」の一言 ⇒ Cを差別から、Aが差別者になることから守る道だと気づく

⇒その学習が「まずはきちんと確かめよう」という合い言葉になって共有され、決めつけと思ひ込みから解放される人権文化を形成していく

⇒それは決して、「友だちのいいところを認め合おう」とか、「ケンカのないクラスを創ろう」などといった心がけ教育からは獲得できない人権学力

⇒だからこそ、Cが本当に無視していたとしても、排除はしない関係が生まれる

※無理に仲良くなることも好きになることも強要されないしAがCを嫌っても何の問題もない※

⇒それでも、排除はしない なぜなら、それは差別だからだ

「決めつけ・思い込み」に評価が加わり「偏見」となり排除が加わったとき「差別行為」が生まれる